



特定非営利活動法人日本防災士会・富山県支部

富山県防災士会会報

第 14 号

平成 28 年 3 月 1 日
発行 富山県防災士会
連絡先 090-9762-8267
(事務局：佐伯)

平成 27 年度研修会

『原子力防災と防災士』

12 月 5 日、富山県民会館において、平成 27 年度研修会が開催されました。会員 40 名が参加。福井大学附属国際原子力工学研究所 原子力災害・危機管理部門 安田仲宏氏をお招きし「原子力防災と防災士」についての講演がありました。



福井大学附属国際原子力工学研究所 安田仲宏氏

原子力災害に備えるために次の 5 点を挙げられました。

- ①放射線を正しく理解すること
- ②過去の事故から学ぶこと
- ③もしも原子力災害が起これば
- ④福島第一原発事故の教訓
- ⑤原子力防災の状況を知る



そして富山県の対応状況について詳しく説明されました。

最後に、防災士の役割を考える勘どころとして、情報の流れと対応(防災士はどこからの情報を元に活動するのか)、放射線物質による汚染への対応(富山県の被ばく医療機関の把握、避難と避難者の受入れ、防災担当者間と住民や周辺地域との連携)など、有事を想定し準備しておくことが重要であり、そのことを県民に伝えることが必要であるとのことでした。言い換えれば、地域において普段から防災士と住民の顔の見える連携が必要であると締めくくられました。

また、原子力発電所は、建設中も含めて、世界 40 カ国に 500 基以上あり、数年に一度くらいの頻度で事故が起きていること。放射線物質は目に見えないが、花粉のようなものと考えれば防御方法が理解しやすいこと。安定ヨウ素剤は放射性物質への暴露前か暴露後早期に使用しないと効果が期待できないことや、ヨウ素以外の放射線物質には効き目がないことなどの具体的なお話もあり参加者一同興味をもって聴講しました。(記 島崎)

富山地方気象台との積極的な連携がスタート

防災士会と気象庁は、自然災害からできるだけ人の命を守るという観点から共通の目的があり、両機関の連携

が必要不可欠であると考えています。日頃、富山県防災士会としても、富山地方気象台から総合防災訓練の啓発ブースで、パネル展示方法や啓発技法等について何度かご教示を受けたり



していましたが、本格的な連携にはほど遠いものでした。このような状況のなかで、平成 27 年 10 月 8 日に

は富山地方気象台から富山県防災士会と積極的に連携を図りたいとの方針が示され、早速富山地方気象台の永井次長様の講演を頂き、気象台の皆さんと学校防災アドバイザー(本会員)との情報交換も行われました。これにより、初の共同活動として防災教育モデル校に学校防災アドバイザーとともに避難訓練指導に当たりました。

今後は、更に連携を深め、学校防災教育や自主防災組織、防災訓練に係る支援を頂き、地震情報や気象情報を有効に活用したより親しみのある啓発活動の展開が期待されます。(記 小杉)

地域との連携

『とうぶ ふれあいフェスタ 2015』

今回で第 5 回目となる「とうぶふれあいフェスタ 2015」が、10 月 25 日、富山市東石金町の不二越体育館及び周辺で行われました。地元の各種団体や企業、学校が参加するなかで、東部校下環境保健衛生連合会を中心につくる実行委員会からの協力要請により富山県防災士会は小杉会長他 6 名で防災ブースを設けました。



北日本新聞朝刊(10月26日)より

防災・災害パネル、家具転倒防止グッズ、感震ブレーカー、簡易トイレ等の展示を行ない、特に新聞紙によるスリッパ作り体験コーナーでは、多くの家族連れが参加しました。又、会場入場者の防災意識アンケートを行ったり、クイズで学ぶ「防災〇×クイズ大会」では、子供達とも楽しく防災を学ぶなど地域との交流を図ることが出来ました。

また、その他に、富山市清水町文化祭、国際交流フェスティバル in TOYAMA、ジュニア防災フェスティバル、防災フェスタ in たかおか 2016 に参加し、啓発を行いました。(記 黒畑)

新入会員
自己紹介

東日本大震災が、私に“防災活動”
を強く意識させた！

防災士(砺波市) 平木 利明

東日本大震災までは、正直なところ防災にあまり関心がありませんでしたが、あの惨劇に強く意識させられ、防災活動の必要性を痛感しました。



平成24年に地区の自主防災会の隊長、11月に防災士となり、翌年、地区の自主防災会会長となり今日まで毎年、防災訓練に取り組んでいます。昨年5月には、“砺波市防災士連絡協議会”が発足しその会長に選任され、市内21地区の防災連携の強化に向け活動を開始しました。DIG研修・市総合防災訓練への参加・他地区の防災訓練の見学及び会報の発行（1月予定）と活動の輪を広げています。

私は、防災訓練は訓練の成果を競い合う様な大会もなく、地味な活動であると思っています。しかしながら、この地味な活動の積み重ねが防災力を高めるのだと信じています。

平成26年には、県の防災アドバイザーの委嘱を受け、昨年は県教育委員会の学校防災アドバイザーとして庄川中学の防災訓練に立ち会いました。又、日本防火・防災協会の全国リーダー研修会にも参加させて頂き、他県の活動の一端を知ることが出来ました。

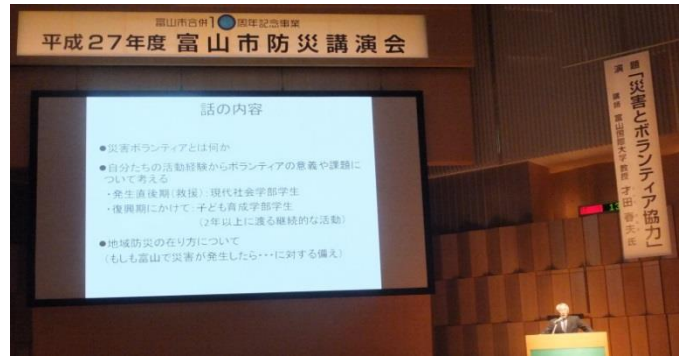
これからも防災士として積極的に活動を行なって行きたいと考えています。

富山市防災講演会

『災害とボランティア協力』

東日本大震災から5年となる「平成27年度富山市防災講演会」が2月19日、富山市の富山国際会議場で開かれ、防災関係者や市民約550人が被災地でのボランティア活動や体制、災害への備えについて理解を深めました。

元富山県防災士会会員でもある富山国際大学現代社会学部教授の才田春夫氏が「災害とボランティア協力」をテーマに講演され、東日本大震災（石巻市）で学生と災害支援活動をした経験等をもとに、ボランティア体制や心構えなど地域との協力の大切さを報告されました。又、



「もしも富山で災害が発生したら・・・に対する備え」として、地域防災の在り方にも言及されました。（記 黒畑）

命を守る！ たかおか防災ラジオに出演

平成27年8月から、ラジオたかおか（コミュニティFMラジオ：FM76.2MHz、聴取可能エリア：高岡市・射水市・小矢部市・氷見市・砺波市・南砺市の一部・富山市の一部）の「命を守る！ たかおか防災ラジオ」（毎月第3金曜日15時30分から30分間）に出演しています。



小川防災士

これまで、7回放送され高岡地区を中心とした防災士会会員延べ13名が出演し、防災の日頃の備え、ライフラインの知識、火災に備えてなど命を守る観点からの防災啓発を行っています。来年度も引き続き、防災士の立場から防災知識を分かりやすく解説していきます。（記 小川）

放送日	テーマ	出演防災士
H27年 8月21日(金)	富山県防災士会の活動	小杉
9月18日(金)	地震発生からの時間割	米沢・向井
10月16日(金)	防災の日頃の備え	折田・有澤
11月20日(金)	家の外の安全チェック	登坂・小川
12月18日(金)	地震が起きたら	向井・藤原
H28年 1月15日(金)	ライフラインの知識	登坂・大坪
2月19日(金)	火災に備えて	松崎・有澤
3月18日(金)	応急手当	笹川・小川

《編集後記》

先般、小矢部市で開催された防災リーダー研修会のお手伝いに行ってきました。研修内容は、本会会員の防災士が総合指揮しての9班編成の図上訓練(HUG)でした。自治体の積極的な取り組みによって誕生した防災士が班に割り振られアドバイザーとして活躍。レベルの高さに驚かされました。着実に防災意識が根づいている「芽出し」を感じました。(Y)

平成28年度通常総会のご案内

○日 時：平成28年3月19日（土）午後3時～5時30分 ○場 所：富山県民会館 8階ホール

○内 容： 第Ⅰ部 特別講演 3時～4時

講師 国土交通省北陸地方整備局 富山河川国道事務所 副所長 齋藤 充氏

「平成27年度 関東・東北豪雨災害を踏まえ、富山県における災害とその対策」

第Ⅱ部 通常総会 4時～5時30分

○懇親会：富山県民会館8階「富山電気ビルレストラン」（総会終了後）

